

世界の山・白神の山・わが人生 ～しらかみなアルピニスト・米内山 和代～

ヒマラヤの青いケシ①

若い頃からこの言葉に憧憬の念を抱いていた。

1990年、大阪で花の万博があった時、ヒマラヤの青いケシがあるというので夏休みを利用して会いに行った。ワクワクしながら咲やこの花館に入ったが、そこにあったのは終わりかけで花びらが萎れていた青いケシ1株。遅かった。

それから何年も経ち、ヒマラヤの高峰に3度登り、自分にとってヒマラヤが近い存在になった頃、不可能と思っていた夏のヒマラヤへ挑戦した。

目的はもちろんヒマラヤの青いケシ(メコノプシス・ホリドゥラ)

ヒマラヤの青いケシと言っても、いくつかの種類があり、この3年前に中国の四姑娘山山麓で青いケシ(メコノプシス・スペキオサ)を見たが、見たいのはメコノプシス・ホリドゥラだったので、夏のヒマラヤ挑戦となった。夏のヒマラヤは雨期で、日本の梅雨のひどい状態。

ヒマラヤの高峰は雲の中でその姿を見られることは滅多になく、カトマンズから現地へのヘリは、4日待つてやっと飛ぶという状態だった。

ただ、4日待つて飛んだ先のヒマラヤは、毎日雨だけど、緑あふれ、見たことのない花々が咲き乱れる素晴らしい世界だった。

つづく

